

観光産業論

国際学部 国際観光産業学科 准教授

小山聖治



授業概要

観光産業の構造・歴史・機能を多角的に理解し、観光現象を“価値創造のプロセス”として捉える導入科目。地域観光の課題、産業の担い手、顧客体験などを題材に、問いを立て思考を深めるディスカッションを行う。考えることを通して、観光の本質を見極める視点を養う。

考える訓練を通して、価値創造の視点を育てる。

小山先生の授業は、観光を「与えられた知識」として消費せず、歴史・社会構造・環境・政策など多面的な文脈から問い直すことから始まる。現場の最新事例を用いて思考を揺さぶり、学生自身が考え・議論し・結び付けることで、自ら価値を創り出す対象として観光産業を捉える視点を育てている。



担当教員からのポイント

Point1 : 理論と“現場”を往復し、最適解を見つける思考を育てる

小山先生が最も強調するのは、観光産業の「正解」ではなく、状況に応じて変わる「最適解」を考える力。車椅子利用者の事例や高級ホテルの稼働率など、現場でしか気づけない“ズレ”を示し、学生の思考を揺さぶりながら、理論を現実はどう適用するかを学ばせる。

Point2 : ライブ形式の対話授業で、全員が考え・意見を持つ状態へ導く

毎回大量の事例・写真・動画を用い、先生が教室を歩きながら次々に問いかける「ライブ方式」の対話授業。学生の回答は絶対に否定せず、どんな意見も肯定的に拾うことで、安心して発言できる環境をつくる。このプロセスを15回繰り返すことで、曖昧だった理解の「解像度」が上がり、学生が自分の意見を語れるようになる。

Point3 : 価値創造につながる“考える訓練”を、授業全体で設計する

事例分析・討論、ゲスト講義とリアクションペーパー（140～300字）の組み合わせにより、学生は「自分なりの見方や意見」を形にする力を身につけていく。授業は単なる知識習得ではなく、観光産業を“自ら価値をつくる対象”として捉え直す訓練の場となっている。

単位 2単位

開講 2025年度 前学期

授業形式 講義

対象 国際観光産業学科2年次

履修者数 93名

問すべての平均点 4.85

履修学生・授業コメントからのポイント



履修学生の声

Point1 : 問い続ける授業で“自分の頭で考える力”が磨かれた

学生にマイクを向け意見を引き出すライブ形式により、「自分の中に答えを持つ姿勢」が養われたとの声が多い。緊張感と先生の受容的な姿勢が相まって、思考の持久力と“自分の意見を言語化する力”が大きく伸びたと実感する学生が多い。

Point2 : 外部講師の話から将来像と社会のリアルをつかんだ

観光・ホテル・航空・行政・マネジメントなど、多様な分野の講師から現場の経験談を直接聞いたことで、職業観が一気に広がった。「初めて将来像が具体化した」「社会人の視点を知れた」という声が続出。

Point3 : 先生の熱量ある授業が“学ぶ楽しさ”と“成長実感”を生んだ

1限でも眠くならない、毎回ワクワクする授業だったという肯定的な声が圧倒的。知識伝達の授業ではなく、“人生の考え方・価値観・姿勢”まで学べたという学生が多く、「大学でいちばん面白い授業」「また取りたい」というコメントが多い。



授業評価コメントより

Point1 : 考え続ける授業で、自分の意見を持つ力がついた

Point2 : 外部講師の話から、将来像や業界理解が深まった

Point3 : 問いかけ中心の授業が、視野の広がりや成長を実感させた

Point4 : 先生の熱量と受容的な姿勢で、安心して発言できた など